



## ◆誰がどのように…？

高齢化等により地域の共同活動、経営規模拡大が困難な中、区長会が中心となり青年クラブなどの各種団体をメンバーとして設置した委員会で、今後の地域資源の保全、営農体制等の構築に向けた取組を決定するとともに、熱心な農家6名が地域の農業を考える会を設置し、基盤整備や営農組織の広域化を検討

土地改良区・農家組合・区長会が中心となり農業者以外を含めた活動組織を設立。地域内の取決め事項の設定と、長期計画の実現に向け活動を展開

ヒマワリの見頃を迎える時期には県内外からの観光客でにぎわいを見せ、地域の共同活動が観光にも寄与

### きっかけ

農業者の高齢化により、地域の共同活動の維持や生産組織の規模拡大が困難化

スマート農業実証事業を開始



### Step 1 (H8~12)

#### 長期計画の策定

- S30までは宮川村として存立し、何事もまとまり易く、他の地区に先駆けた取組を行う気鋭があり、H12に「宮川地区長期計画」を策定

### Step 2 (H9~18)

#### ほ場整備の実施

- 経営体育成基盤整備事業により、農地の集積・大区画化(1ha)による農作業の効率化及びため池、揚水機場の整備とパイプライン化により水不足解消と水管理労力を軽減
- 50ha単位の4つの集落営農組織を設立

### Step 3 (H19~)

#### 地域共同活動に着手

- 長期計画実現のため、H19に創設された農地・水・環境保全向上対策(現在の多面的機能支払)の取組を開始
- 農業者以外を含めた地域ぐるみで活動することにより地域農業を下支え

多面的機能支払交付金を活用

### ☆三位一体となった地域運営体制の構築

改良区、農家組合、区会長が中心となり、設立後10年経過した活動組織を一般社団法人化し、地域資源の保全、施設管理、営農が一体となった持続的な体制を構築

### Step 4 (H26~)

#### 新たな地域ブランドの誕生

- 多面的機能支払の活動組織が農用地を活用した景観形成の一環として、ヒマワリを植栽。
- さらに、緑肥としてすき込むことで地域ブランド「ひまわり米」が誕生

### Step 5 (H27~)

#### 生産組織の法人化

- 4つの営農組織を合併して「若狭の恵」を設立し、特別栽培米「ひまわり米」の生産を拡大
- 米の契約販売、園芸作物(トマト)の導入、米を使った加工品(甘酒)の販売へと生産組織が大きく発展

### 将来に向けて

- ☑ 土地改良区との更なる連携強化による地域資源の保全体制の強化及び計画的・効果的な施設整備の実施を目指す。
- ☑ ひまわり畑による都市部との交流、農家レストラン「あばん亭」の利用拡大、販路拡大及び伝統文化の継承による地域活性化を推進
- ☑ 力強い農業の展開、農産物のブランド化、6次産業化を推進
- ☑ 農地中間管理事業を活用した、基盤整備と更なる農地集積を検討中

### 今後の展望

### Step 7 (R元~)

#### 次世代型農業への取組

- 田植え・稲刈りの無人化、ドローンでの稲の生育管理等の最新システム・技術を導入することで、若手従業員の習熟度の向上による中山間地域における安定経営が可能な次世代型農業を目指している。

スマート農業実証プロジェクトを活用

### Step 6 (H28~)

#### 活動組織の一般社団法人化

- 非農家を含めた活動組織の強化と持続性、更なる発展を目指すとともに営農組織の合併に併せて(一社)宮川グリーンネットワークを設立
- 地域の公益性を担う地域資源管理法として法人化した生産組織をバックアップ

H29には小浜市全域を対象とした広域活動組織に参加

H17に一旦断念。H26に経営実態調査や農地中間管理事業等の説明会を実施し、設立準備委員会で検討を重ね法人を設立